

無検査(米国産)牛肉の輸入に反対します

だから
私たちは

ずさんな食肉加工処理

BSEの原因とされ、人間の変異性クロイツフェルトヤコブ病を引き起こす異常プリオンは牛の脳やせき髄に多く存在するため、それらの部位は「特定危険部位」として完全除去することになっています。

しかし、アメリカではその処理が完全になされてはいません。牛肉処理の現場で働く、全米食品検査官労働組合の議長は「本来食肉として処理されてはいけない月齢30ヶ月齢以上の牛の危険部位が(食肉として)処理されるケースがある」と告発しています。

飼料規制も不十分

BSEの感染を防ぐために、牛の肉骨粉を飼料として牛に与えることは禁止されています。ところがアメリカでは牛の肉骨粉が豚や鶏などの家畜用の餌として流通しており、規制自体を知らない牛肉生産者も多いと指摘されています。このようなことから特定危険部位が牛の飼料に混入しBSEに感染する危険にさらされています。

全頭検査は行わず

アメリカではわずか2頭しかBSEが確認されていません。同国の飼育頭数や飼料規制の実態から推測すれば数百頭の牛がBSEに感染していても不思議ではないと言われています。アメリカの大手食肉業者は、「日本向けにBSEの検査を認めると、アメリカ国内の消費者も検査を求めるようになり全ての牛を検査しなければならず、膨大なコストがかかる」として検査に反対するよう農務省に圧力をかけています。

個体管理もされていない

日本では牛は1頭ごとに識別され月齢の確認がされています。しかし、アメリカでは牛の個体管理は行われていません。日本政府はアメリカ産牛肉の輸入再開条件として「20ヶ月齢以下で特定危険部位が除去されている」ことを挙げていますが、一頭ごとの月齢が判らないものをどのように判断するのでしょうか。

私たちは国内対策と同様の安全性をアメリカ産牛肉にも求めます！

その安全性が確保するまで、アメリカのからの牛肉輸入に反対します！

隠されている!? アメリカのBSEと変異性ヤコブ病

2006年6月現在で、確認されたBSEの発生数はイギリスの184,370件をはじめとして、世界で189,889件が報告されています。

日本では2001年9月に1頭目が発見された後、現在までに27頭がBSEに罹っていることが確認されました。

一方、BSEに罹患した牛肉が原因だとされる変異性クロイツフェルトヤコブ病による死亡者数は171例(そのうちイギリスでは156例)だとされています。

アメリカでも多発している?

アメリカアルツハイマー病協会は、1975年は約50万人だったアルツハイマー病患者数が、2005年は約450万人、2050年には1,100～1,600万人になると推定しています。アルツハイマー病は進行性痴呆などヤコブ病と似た症状を示します。従って、BSEの牛肉が原因となった変異性ヤコブ病がアルツハイマーとして処理されていることは想像に難くありません。

また、ニュージャージー州のフリージャーナリストは、特定のレストランの客から13人のヤコブ病が出たことを告発しています。この告発に対して、州の保健局は「13人は全員が散发性ヤコブ病の症状であり変異性ではない。アメリカではBSEは発生しておらず、変異性のヤコブ病が起きることはない」と否定しましたが、この報道に対して「ヤコブ病で死んだ私の家族もそのレストランに通っていた」と別の遺族からの報告が3件ありました。

アメリカではBSE由来の変異性ヤコブ病が慢性しているにも関わらず隠蔽されている可能性が高いのです。